

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1276800081		
法人名	社会福祉法人長生会		
事業所名	グループホームだるまさん		
所在地	千葉県長生郡長生村宮成3496		
自己評価作成日	平成25年3月1日	評価結果市町村受理日	平成25年5月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/12/">http://www.kaigokensaku.jp/12/</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社ケアシステムズ		
所在地	東京都千代田区一番町6番4-707号		
訪問調査日	平成25年3月17日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

のどかな緑に囲まれた環境と四季折々の風景が楽しめ、隣接した尼が台総合公園が散歩コースになっています。だるまさんの理念である『安心に基づく介護』をモットーに、利用者の方々は勿論、だるまさんに関わるすべての方々には居心地がいいと思って頂けるよう、日々ケアに取り組んでいます。また、地域の方々(45戸)の協力により、5年前に自主防災組織が立ち上がり防災訓練、避難訓練を一緒に実施しています。施設行事である「夏祭り」や「焼き芋・トン汁大会」等にも、ご協力を頂き「地域との絆作り」「地域に開かれた施設」を目指しています。地元の中学校との交流会、職場体験、施設行事のボランティア活動にも協力して頂いています。そして、家族会の皆さんにも「夏祭り」や「敬老会」、「秋の大運動会」や「焼き芋・トン汁大会」に参加して頂き利用者の皆さんと共に楽しんでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホーム開設から10年目の節目を迎えた、長生村ただ一軒の認知症高齢者グループホームである。地元しっかりと根ざしており、夏祭りの際は300人~400人の地域住民が訪れ、利用者、職員らとともに賑やかな一日を過ごしている。地域の自主防災組織とも連携しており、非常災害時は協力し合う体制が敷かれている。次年度はより一層のサービス向上を図るため、職員全員が利用者となって介護を体験してみる計画を組んでいる。利用者が食べているミキサー食を頂き、介助を受けてみて、振り返りを行う予定である。1階にはデイサービスが併設されており、相互の交流も盛んである。今後ますます、地域の介護拠点として重要な役割を果たしていくため、職員各位は積極的に研鑽を積んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域の中で安心して生活を営むことが出来るよう法人独自の理念を掲げている。また、ユニット会議などの場で、職員全員が法人の理念を共有し、日々のケアの中で実践するよう心掛けている。	ホームの名称にちなんだ「七転び八起き」を掲げ、アイデアを活かした柔軟な介護、安心安全な介護を理念としている。特にアイデアは常に職員一同から寄せられ、レクリエーションほか、さまざまな場面で職員の工夫が活かされている。理念は研修や会議で常に振り返っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩時などの日常的な挨拶をはじめ、近所の公園での子供達とのふれあいやお店で店員と馴染みの関係ができています。また、地域行事(祭りや文化祭、ゴミゼロ運動など)に積極的に参加し交流を図っている。	開設10年、長生村でただ1軒のグループホームのため、地域住民の信頼は厚く、ボランティアほか、多くの人々が集っている。地域に向けて家族介護教室やキャラバンメイトの講習を行い、相互に協力しあう関係がある。災害時の連携体制も築かれている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	中学校での職場紹介の講演や職場体験の受け入れ、中学校教師の職場実習の受け入れなども行っている。また、施設長は地域の集まりでキャラバンメイトの講習を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の場を通じ、利用者やサービスの実施状況を見て頂くと共に、ホームの取り組みなどを伝え、参加者から意見を頂き、サービスの質の向上に努めている。	運営推進会議には、地域包括支援センター職員や民生委員、自治会員、有識者、地域住民および家族や利用者等が集まり、年2回、開催している。敬老会等の行事と併せて行い、利用者の様子を見てもらったり、共にお茶を飲んだりして、和やかな雰囲気で見聞交換を行っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村とは常に相談をし、情報の収集や提供を行っている。また、施設長は村介護保険運営協議会委員として、村全体の福祉介護の取り組みに協力している。	長生村役場の職員や役場内にある地域包括支援センター職員と連携を取り、協力し合っている。特に地域包括職員とは顔なじみの間柄であり、繋がりが強い。村役場以外にも、隣接する茂原市職員と情報交換したり、問合せ等を行うことも多い。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	千葉県高齢者権利擁護・拘束・廃止研修を受け、拘束の無いケアを実践している。日中は玄関に鍵をかけることはなく、外に出られる方には、職員がさりげなく付き添いをしていく。	身体拘束は原則として行っていない。職員は外部研修に参加し、拘束、権利擁護、虐待等について学んでいる。日中は施錠しておらず、利用者が1階に降りようとした場合は職員がさりげなく付き添う。また1階にあるデイサービス職員とも連携体制を組み、見守りを行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員全員が外部研修や内部での勉強会に参加している。また、整備されたマニュアルを理解し、虐待の防止を徹底している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修に参加し、その知り得た情報を内部研修や勉強会で水平展開し学習している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前に面談をし、契約時は契約書、重要事項等、口頭でも説明し理解、納得して頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日々のコミュニケーションを通し何でも言える関係、雰囲気作りを大切にしている。又、リビングや他の利用者の前で言えない事は個々に対応し、愚痴や相談をしてくださる現状を大切に、運営に活かしている。ご家族とは日常の面会時の対応のほか面談の機会を設け意見や要望を聞いている。	家族会が年2回開催されており、およそ半数以上の家族が参加している。職員は参加せず、家族同士で率直な意見交換をしてもらい、代表から意見、要望の報告を受けている。利用者個々の希望などは日々の会話の中から聞き取り、サービスに反映するよう努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は毎月のユニット会議で職員の意見を聞いている。施設長とは年に2回の個人面談の際や、必要時はその都度相談をし運営に反映させている。	職員は毎月のユニット会議で意見交換し、サービスに反映するよう努めている。また施設長面接が年2回あり、職員個々の自己評価や管理者の評価をもとに話を聴いている。面談は人事考課に加えてメンタルケアも兼ねており、職員は1時間以上かけて施設長と個別に面談している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回の自己評価の提出、面談で意思の疎通を図り、職員個々の思いや勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部での研修に参加する機会が多く与えられており、内部研修、勉強会も毎月開催し職員もスキルアップに努めている。また、新人の育成にはバディ制度を取り入れ、日々の業務をOJTとして目標、課題を持って行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH連絡会へ参加し、連絡会主催の研修を受けている。また、他のGH職員との交流もあり、問題や悩みの相談もでき、より良いGH作りに取り組んでいる。また、施設長はGH連絡会の定期研修を企画し地域全体のGHのレベルアップに取り組んでいる		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に必ず本人と面接を行い、グループホーム内を案内したうえで、ADL面だけでなく、不安や困っている事についてもアセスメントを取り、本人の状態や希望に添った支援ができるよう、職員間で話し合いをしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	電話での相談や来訪された場合など、ご家族の話聞き、ご本人やご家族の状況、不安や悩み事など、ご家族の思いを受け止めるよう心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人の能力や希望、ご家族の希望を聞き、その時の最良の方法は何か、様々なサービスの利用を含め、一緒に考えるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は認知症を正しく理解することに努め、一人ひとりのできる事、できない事を見極めながら、ご本人が活躍できるよう支援をしている。また、日常生活の中でご利用者と職員が共同生活者として支え合う関係ができている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	全家族が家族会のメンバーであり、イベントなどに協力して頂いている。また、ご本人、ご家族、スタッフが一緒に食事会を企画する等、ご利用者にとって最も良いケアが出来るよう常にコミュニケーションをとっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会のほか、ご家族に協力して頂きながら、馴染みの環境(人、物)の継続に努めている。デイサービスを利用されていたご利用者は現在もお友達に会いにデイルームへ遊びに行かれたり、ご自分のお部屋に招待してお話しを楽しまれている。また、ご近所の方や長年のお付き合いのお友達もよく来訪され、一緒にお茶をされている。	家族を始め、友人知人、地域住民の訪問が非常に多いホームである。地元のボランティアグループも頻りに訪れ、利用者と地域との繋がりは切れることがない。1階のデイサービスの利用者がホームの居室を訪れ、話に花を咲かせることも多い。家族が宿泊していくこともしばしばである。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者同士のお互いを思いやる気持ちを大切に、利用者間で支え合うことが出来るよう場面に応じて支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じた関係作りを心掛けている。契約終了後も家族会のOBとしてご協力頂いているご家族や、遊びに来て下さり思い出話をされ、懐かしんで下さるご家族もいる。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式を取り入れ、ご家族にも協力して頂きながら、一人ひとりの想いや希望に添えるように努めている。	生活サマリーと名付けられた書式に、利用者個々の重要な基本情報を抜書きしている。職員はこれにより、利用者の意向や希望をひと目で把握することができる。他にもセンター方式アセスメントを取り入れ、職員と家族とで利用者像を詳細に掴むよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	初期段階のアセスメントだけでなく、利用を重ねていく中でわかっていく各種情報についても重要視をし、アセスメントを重ねている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	心身状態の把握を記録に残すほか、できる事、できない事など日々変わる本人の状態変化を職員間で話し合うようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	センター方式のアセスメントを取り入れ、カンファや日常でも話し合いながら、6か月ごとの検討会で見直しを行う。状態に変化のあった時はその都度行い、ご家族とも話し合いながら、介護計画に反映するように努めている。	月に一度、ユニットごとの会議を開き、利用者情報を意見交換して共有している。ケアプランは半年ごとのカンファレンスを通じて見直しを行う。居室担当者がおり、それぞれが担当の利用者について情報を把握し、会議などで情報発信している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の個人記録にはその日の状態を記載している。その記録をもとに情報の共有化及び介護の実践を図り、介護計画の見直しにも役立てている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一人ひとりのニーズを把握できるように努めている。馴染みのあるデイサービスへ遊びに行ったり、NPO法人を定期的に利用し、多くの方との友人関係を継続している方もいる。買い物を楽しみになっている方には職員と一緒に食材の買い出しなども行っている。リハビリが必要な方には理学療法士の指導のもとで行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアや地元中学校の生徒達など、地域の多くの方々の協力が得られている。また、村の文化、教育機関からイベントの招待などで優遇を図ってもらっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族との連絡を密にし、馴染みのかかりつけ医との関係を大切にしている。又、職員が個々のかかりつけ医の受診に立ち会い医師と馴染みの関係ができています。必要時は受診の支援も行っている。	事業所の提携医師(内科・外科および歯科)に受診するほか、利用者個々のかかりつけ医に通院することも可能である。個別のかかりつけ医の場合は、原則的に家族対応をお願いしているが、事情に応じて職員による同行も行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設のデイサービスの看護師に24時間連絡が取れ、日頃より気軽に相談、指導してもらい、指示を仰いでいる。そのうえで受診に繋げている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	直接病院に出向き早期退院に向けて十分に話し合っている。また、日頃から個々の医師と良い関係を築き、相談に乗って頂いている。また、インフルエンザの予防接種等は、往診にて接種がうけられるよう配慮して頂いている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	かかりつけ医より重度化していく過程の説明を受け、終末期の対応について助言や受け入れ先の病院の紹介等の相談に乗ってもらっている。家族にも入院までの段階で付き添いをお願いすることもある。職員は常に話し合いをし、状況にあった対応をしている。また、受け入れてくださる病院の相談員とも連絡を取り合い相談しやすい体制を築いている。	原則として事業所での看取りは行わない方針である。食事が口から食べられなくなった時を節目とし、病院などへの移行支援を行っている。バイタルチェックは一日3回行い、体調の変化には、早め早めに気づくようにしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急対応マニュアルを整備し、事故発生等に対応できるよう努めている。また、職員は普通救急救命講習1を取得するようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の指導を受け、避難訓練をしている。地域の方々が自主防災組織を築きその拠点となっている。村の寄贈による防災倉庫も設置され、災害時の備品、食料等も備え、地域の方と一緒に備品の使い方の講習も受けている。	村の自主防災組織があり協力体制にある。村の寄付による防災倉庫に災害時の備蓄物品が保管されている。ホームは2階部分にあるため、滑り台式の非常階段が設置されている。定期的に消防署の指導を受けた避難訓練も行っている。	職員、家族などの非常用緊急連絡網を作成しているが、電話番号等の定期確認を行っていない。番号が変わっていることも考えられ、時折、更新することが促される。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人情報の取り扱いについては、書面にて同意書を取り交わしている。職員はご利用者に対し、プライバシーに配慮した声掛けをしている。	個人情報の保護方針や利用目的は契約書などの説明文書に明示され、玄関の目立つ場所に掲示もされている。事業所だよりには多くの利用者の写真が掲載されているが、本人、家族の許可を得て行っている。日頃の言葉遣いは、利用者に伝わりやすく、かつ丁寧な言葉を心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	いくつかの選択肢を用意し、個々に確認したり、一人ひとりに合わせた声掛けを行い、自己決定を大切にしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人の能力や希望、ご家族の希望を聞き、その時の最良の方法は何か、様々なサービスの利用を含め、一緒に考えるようにしている。個々のペースで生活できるよう支援している。また、一人ひとりの特技や特徴を毎日の生活に活かせるよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	髪形や服装、化粧など個々の好みを大切に、買物支援と一緒に洋服を選んだり化粧品を選んだりしている。また、出張理美容の協力も頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりのできる力を発揮して頂きながら、準備や片付け物を行っている。また、食べたいときに食べたいものが提供できるよう、個々の好みを把握し、準備するよう心掛けています。	平日は1階のデイサービスの分と合わせて、調理を業者委託している。日々の朝食および週末の食事は職員が料理している。ご飯をおにぎりに変更したり、パンに変えることも可能である。きざみやミキサーは、利用者個別の状態に合わせて職員が行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	それぞれの身体状況や体重変化に注意しながら、可能な範囲でご本人の嗜好に合わせるよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々の口腔状態を把握し、毎食後の口腔ケアを本人の能力に応じて支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	可能な限りトイレで排泄できるよう支援している。夜間はリハビリパンツを使用される方も日中は布パンツにパッドを使用している。排泄パターンを把握し、言葉で訴えられない方も表情等を見逃さないようにし、失禁が無い様に心掛けている。	トイレはリビング周囲に4か所あり、利用者は個別のペースで使用している。介助が必要な利用者は1名のみで、日中は普通の下着にパッドを使う程度である。手作りヨーグルトや牛乳を提供したり、日々の運動で自然な排泄を心がけている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事だけでなく、散歩などの運動や毎日手作りヨーグルトを食べ続けている。また、個々に合わせて起床時に野菜ジュースや牛乳の提供もしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一日おきの入浴が基本となっているが、出来る限り希望の時間帯や入浴したいタイミングで入浴している。	二つのユニット交互に一日おきの入浴を行っている。浴槽はヒノキで、一人30分くらい時間を取り、ゆったりとした風呂を楽しんでもらっている。入浴の順番や時間帯は、可能な限り希望に沿うよう心がけている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々のペースや希望に添って、臨機応変に対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方通りの服薬が出来るよう、職員は一人ひとりの処方薬を常に確認し、把握するよう努めている。また、確実に服薬できるように一人ひとりの力に合わせた支援を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご本人の持っている力や得意分野が発揮できるように、場面場面で促しを行い、張りのある生活が送れるよう心掛けている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	隣接している総合公園の散歩を日課とし、四季それぞれの楽しみを見つけている。また、外食やドライブも楽しみになっている。外食の際や外食先でも親切に協力して頂いている。ご家族によっては定期的な帰宅や一緒の外出を継続してくださっている。	日々、さまざまな場所への外出支援を行っている。近隣の散歩、買い物、外食、ドライブなど、利用者は日常的に外に出る機会がある。1階のデイサービスの車を利用することもできる。年1回は、日帰りの遠足も実施している。デイサービスには日々、ボランティアグループが訪れて演芸を行っているため、ホームの利用者も参加して楽しんでいる。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的に小遣いはホームで管理しているが、日常的な買い物では、ご利用者の能力に応じて支払いができるように支援している。ご家族の同意の上自己管理しているご利用者もいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時に電話が掛けられるよう支援している。ご利用者によっては携帯電話でご家族、お友達と好きな時に連絡を取り合っている方もいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	天井が高い為、自然の光を取り入れやすく圧迫感が無い。また、長い廊下には、利用者の写真や作品を飾り、安心できる環境作りに努めている。	天井が高く、窓には障子が嵌められ、洒落た居心地のよい空間である。ソファや、畳の小上がり、こたつなどが置かれ、利用者は思い思いにくつろいでいた。壁には利用者の写真や創作などが飾られ、楽しく、明るい雰囲気を出している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ところどころにソファや椅子を設置したり、畳の所には炬燵もある為思い思いの場所で一人の時間を楽しんだり、お友達とおしゃべりを楽しんだりしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	お部屋を、個々の好みに合わせたしつらいにし、居心地の良い空間づくりをしている。それぞれ居室で一人で過ごす時間も大切にしている。	全室個室のワンルームだが、部屋の中程で区切られた作りになっている。奥まった方にはベッドやテレビが置かれ、入口側には洗面台が設置されている。ドアを開けてすぐにベッドが見えないため、プライバシーが守られ、快適な空間となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	浴室や廊下に手すり等が整備されており、安全に配慮されたものとなっている。歩行の不安定な方も手すりにつかまり廊下散歩している。		